

---

---

## ホットニュース(平成10年度／第5号)

---

---

### ●今月の業界ホットニュース／～経済政策と公共投資～

景気対策特別枠の設定により来年度の公共事業予算の大幅な増加が見込まれている。しかし、景気対策として即効性があると言われている従来型の公共事業に、持続性があるか否かは疑問である。

これまでの成長型社会では、生産基盤としてのインフラ整備が、都市開発や産業立地と市場の拡大を伴い、公共事業の効果を可視的にしてきたが、成熟型社会に向けての生活インフラの重点整備では、経済的な波及効果は少ない。

当面の対策はともかくとして、成熟型社会での経済政策や公共投資のあり方についての展望をもちえないと、21世紀に向けての基本的な経済回復は期待できない。

生活インフラの整備が、生活産業の育成や高度化に波及するとともに、次世紀を担う情報産業が真にリーディング産業となるための空間やインフラ投資のあり方を、具体的に画いていく必要があると考えられる。

---

---

### ●都市計画・交通計画の動向／～ヘドニック・アプローチ～

近年の社会的な納税者意識の高まりや不況による税収不足・財政構造改革の流れの中で、公共事業(社会資本整備)における費用対効果の検証が行政側・市民側ともに盛んである。我が国の将来像を考えると、予算の執行を最大限の効果を伴うようにすることは当然であり、こうした検証は大いに促進されるべきものと考えられる。

現在、いくつかの委員会でこうした検証が行われているが、手法としては産業連関表を利用した経済波及効果に加えて、最近では「ヘドニック・アプローチ」を利用することが流行である。本稿ではヘドニック・アプローチに関する説明は省略させて頂くが、本来、この手法は車などの耐久消費財を対象として用いることが多いのだが、工業製品における品質を「社会資本整備の質」、製品価格を「地価」と読み替えて理論値のシュミレーションによる土地利用増進(地価の上昇)効果を測定している。

この手法により個別の施設による効果も、また、それらを総合的に整備することによる効果も測定でき、面的なまとまりを持った「市街地」を形成する公共投資の費用対効果の検証が可能となる。

しかし、不動産が対象であるためデータ数及び品質に関する情報が少ないことが分析の妥当性を高めていくためのボトルネックとなっている。今後はデータの収集や品質評価観点の全国的な標準化を図り、よりの確かな分析を可能とする環境作りが課題となる。また、委員会やその成果の説明における経験から察するに、如何に「理論地価」とはいつても社会資本整備の効果を土地の価格で表すことに対する精神的な抵抗感は強いようだ。特に住民と直接接する機会の多い部局では、それが固定資産税の値上がりに対する住民の反対へ直結することが想定されるため、そうしたところへも配慮した成果の表現手法を検討していくことが重要であると考えられる。

=====

●業務の紹介／～越南インター周辺産業・物流団地整備構想～

=====

群馬県藤岡市(藤岡JCT)から長野県北を經由して新潟県上越市(北陸自動車道)に至る上信越自動車道は、早ければ平成11年秋頃に全線が開通する。現在、中郷IC～上越JCT間の工事が急ピッチで進められている。

これにあわせて、上越市では3つ目のICとなる上越南ICが整備される。重要港湾直江津港があり、2本の高速道路と3つのICを持つこととなる上越市は、高速交通体系に非常に恵まれた都市と言え、物流機能の立地は断然優位である。更に中長期的には上越市と新潟県六日町を結ぶ地域高規格道路や、北陸新幹線(長野以北)も整備される予定である。

このような状況にあつて本業務は、上越南IC周辺に産業・物流団地を計画することを目的とするもので、物流の他、ハイテク産業、商業や軽工業、オフィスなど複合型の団地形成を目指すこととしている。具体計画はこれからであるが、現在考えている計画のポイントは賃貸的団地経営であり、E.ハウードの田園都市の経営思想に近いものを目指すべく、地権者や立地企業に打診していく予定である。

=====

●技術開発・研究会の紹介／～国際貢献－外国人研修生の受け入れ～

=====

アルメックでは、外国政府、国際機関、民間などを通じて様々な形で国際貢献を積極的に行っている。また、社団法人日本国際学生技術研修協会“IAESTE (The International Association for the Exchange of Students for Technical Experience)”の外国人研修生の受け入れも行っており、今年もスペインからAlfredo Jarque Magan君が来日し、我が社で3週間の研修を行った。

彼には、アルメックでの共同作業による実地研修と現地視察などを通じて、日本の交通計画や都市計画を学んでもらった。特に彼は東京の交通体系に興味を持っていたようであり、スペインの交通体系と比較して、地下鉄・鉄道の利便性とサービス水準の高さに感心した反面、複雑な乗り換えや高くて難解な料金体系に戸惑いもあったようだ。また、スペインでは充実しているバス交通に対して、東京のバス交通に疑問を感じたようである。3週間といった短い期間ではあったが、研修で学んだ様々な体験を活かして、彼が母国で活躍することを願っている。

アルメックホットニュース(平成10年8月15日発行)

////////////////////////////////////